

広報ちゅうぶんと

3月1日発行
編集者：池澤

脳血管障害について

脳血管障害は大別して頭蓋内出血と閉塞性血管障害に分けられます。頭部は全身の十三分の一の大きささしませんが、全身に流れる血液の1/4～1/6 を使うといわれており、発症した時の影響が大きいと言えます。

脳血管障害で急に発症し、通常意識障害を来し、しばしば半身麻痺、発語障害等を伴うものを脳卒中と言われています(英語でいう stroke、打ち倒すが脳血管障害における脳病変の特徴をよく言い表している)。

脳出血は高血圧性脳出血の別名が有るように、老化に伴う脳動脈の硬化に血圧が上がることで血管が破綻して発生します(動脈硬化と高血圧の関係は車の両輪に例えられる)。

くも膜下出血は先天性の脳血管の異常により発生した血管の瘤が加齢とともに拡大し四〇～六〇歳の頃をピークに破裂して出血を起こすもので、突発的に激しい頭痛を来し、意識消失を来すことが多いです。手術的療法が唯一の治療法となっています。

脳血栓は脳の中の比較的大きな血管が加齢により硬くなり閉塞していくもので高齢者に多く、さまざまな発症のタイプがあります。中でも、急にめまい、意識障害、呂律不良、手足の脱力などを繰り返す例は一過性脳虚血発作と言い、次に起こる大きな障害の前兆であることが多く、躊躇せずに検査を受けることが必要です。

これに対して脳塞栓は主に心臓にある心房細動などの病変に伴って

心臓の中で発生する凝血が脳の血管に飛んで急激な閉塞を起こすもので、瞬間的に症状が完成してしまうことが特徴であり、若年者にも発症し、再発も多いのが特徴です。

脳血管障害の特徴として脳の部位と障害される血管の大きさ、即ち、脳の障害される範囲により脳病変の重症度が決まってくると言えます。脳の機能局在論(脳の決まった部位は決まった働きを持つ)が関係してきます。

アルコールの多飲、喫煙、ストレスも関連すると言われており、発症の予防にはこれらに対する治療が必要です。

.....
義足、装具知っていますか？

理学療法士 安次富 寛貴

「義足」は、事故や糖尿病などの疾病によりやむを得ず足を切断することになった場合に、切断された足を代償するものです。

「装具」は、種類が多く適応疾患も様々です。例えば脳卒中による運動麻痺をきたすと、足を振り出す動作や体重を支えることができなくなる場合がありますが、運動麻痺になった足に装具を装着することで、立つて体重をかけることができるようになったり、歩行時に足を振り出しやすくするといった補助の役割をします。これらを装着してリハビリテーションを行うことにより日常生活動作や病棟内での歩行練習が円滑となります。

当院では、自宅退院に向けてよりよい支援を行っていくために、早期での歩行獲得を目指しています。それゆえに、歩行するための一つの補助具としてこれらの義足・装具といったものが必要になることも、患者さん及び家族の皆様に対しては、随時担当理学療法士から説明させてもらっています。

また、毎週火曜日の16:00から1階訓練室にて装具回診を実施しており、医師、理学療法士(PT)、義肢装具士(PO)が中心となって、各患者さんに適合した義足、装具の検討と作成に携わっています。

家庭血圧計お話

近年、家庭血圧計が普及し、量販店等で手ごろの値段で購入できるようになり家庭血圧測定が高血圧の予防や発見、治療評価に大変役立てられています。外来での血圧は月に一度、患者様によっては2-3ヶ月に一度の受診時の測定した血圧で、それだけで高血圧と診断することや血圧コントロールが良好か否かを判断することが難しいことがあります。家庭血圧計にも色々あります。測定法ではカフの位置による誤差が小さいオシロメトリー法によるものが主流となっています。血圧測定部位では上腕用、手首用、指用の3種類があります。手首や指用は小型で簡便ではありますが血圧測定の精度に関しては上腕用が最も優れています。厚生省班研究の結果でも精度は上腕用、手首用、指用の順で特に指用血圧計のなかには誤差が非常に大きいものが認められたとの報告があります。これから購入される方には上腕用をお勧めします。

家庭用血圧計は長期使用により精度が低下してくるので定期的なチェックが必要です。患者様から家庭血圧計はもってはいないが測るたびに値が違ってくるから測っていないという声をきくことがあります。そのときは一度外来受診の際に家庭血圧計を持参してもらい、測定方法の確認と水銀血圧計による測定値との比較をしてもらおうようにしています。測定方法についてはカフの巻く位置は正しいか、測定部位を心臓の高さに保っているか。測定時刻はなるべく同じ時間帯に測定、数分の安静後に座位で同じ腕で測定しているか等を確認します。家庭血圧計の表示と

水銀血圧計の聴診法による血圧値の差は5~10mmHgであれば良いとされています。

家庭血圧は外来血圧より低く、差の平均値は約10/5mmHg。日本高血圧学会のガイドラインは家庭血圧135/80mmHg以上を高血圧の診断基準としています。

家庭血圧は外来血圧より低く、差の平均値は約10/5mmHg。日本高血圧学会のガイドラインは家庭血圧135/80mmHg以上を高血圧の診断基準としています。

家庭血圧測定は日課になっている方には是非続けて頂きたいと思えます。毎日測定できない場合でも週に1-2度でも測って頂ければまったく測らないよりは担当医にとっては有用な血圧情報になります。最後に、多少の血圧の変動にとっても神経質になる方が時々いらっしゃいます。

ますが血圧は常に変動するもので一時的な血圧上昇や低下はあまり気にしなくてよいことを付け加えておきます。



